

平成29年度 苫小牧市非核平和事業



広島平和記念公園内『原爆ドーム』前にて

## 苫小牧市中学生広島派遣事業 体験感想文集

苫小牧市政策推進課



## 目次

◆	中学生広島派遣事業を終えて「団長 松下 文也」	▶	1
◆	明野中学校 3年 橋場 優里	▶	3
◆	明倫中学校 3年 渡辺 美翔	▶	5
◆	光洋中学校 3年 小山 愛花	▶	7
◆	啓北中学校 3年 高橋 菜椿子	▶	9
◆	緑陵中学校 2年 野阪 美羽	▶	11
◆	事業の様子	▶	13
◆	苫小牧市非核平和都市条例条文	▶	17



平成29年中学生広島派遣団

団長 松下 文也

(苫小牧市政策推進課 主事)

本事業は、次代を担う子どもたちの戦争と平和に対する意識を高めるため、広く市民に平和の尊さを考える機会を設けることを目的に実施している事業で、平成7年から実施しています。平成29年度は「苫小牧市非核平和都市条例」制定15周年のため、団員（中学生）を5名に増員して広島へ向かいました。

今年度の研修は、事前学習と市長表敬を終えて、7月25日から27日までの3日間の日程で行いました。

初日は、早朝に苫小牧市役所へ集合し、新千歳空港から羽田空港、羽田空港から広島空港へ乗り継ぎ広島へ移動しました。移動後は広島平和記念資料館を見学しました。館内は混雑しており、見学者の半数近くが外国人であることに驚きました。団員たちは、熱で曲がった瓶を触ったり、ボランティアガイドさんの話を聞いたりと真剣に学んでいました。

その後、資料館会議室にて被爆体験者である“豊永 恵三郎”さんより体験講話をしていただきました。当時9歳だった豊永さんの被爆当時の状況や気持ち、現在の体の様子などをお話いただき、現在減りつつある語り部さんの話を聞くことができ、資料や写真から得る情報よりも具体的に状況を理解することができました。また、感情のこもった話を聞くことで、団員たちも何か感じるものがあつたのではないかと思います。

研修2日目は、平和記念公園を訪れ、市民の皆さんや団員の学校の生徒さんが平和の願いを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像に奉納しました。

その後、本川小学校を訪れ、ガイドの“岩田 美穂”さんのお話を聞きながら本川小学校平和資料館を見学しました。この資料館は、原爆に耐えた旧校舎の一部を使用しています。ガイドの岩田さんは自らも卒業した本川小学校の様子や、母親の被爆体験を語り継いでおり、被爆後に本川小学校が臨時病院となったことや、グラウンドで遺体を焼いていたこと等、当時の話をわかりやすく聞かせてくださいました。最後に敷地内にある慰霊碑に献花しました。被爆した当時の建物の中で話を聞くという貴重な体験ができました。

広島は苫小牧と違い非常に蒸し暑く体力を消耗しましたが、無事3日間の研修を終えることができました。本研修までにわずかな時間しかとれず団員たちが打ち解けるのも学ぶのも全て研修中という状況の中で、私が思っていた以上に団員たちは真剣に考え、学んでいたと思います。研修の目的は平和について学び伝えることですが、団員たちはそれ以外のことも多く学び有意義な研修になりました。それぞれ感じたことを少しでも多くの人に伝えてほしいです。

最後に、今回の広島派遣事業を実施するにあたり、ご理解とご協力をいただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。







1945年、8月6日、午前8時15分。広島に原子爆弾が投下され、1日に6400人、1年間に14万人もの尊い命を奪いました。その恐ろしい原爆について学ぶため、私たちは7月25日から3日間、広島を訪れました。

1日目は、平和記念資料館を見学しました。ここでは、熱線によって変化した瓶、爆風によって飛ばされたガラスが人の体に突き刺さった写真、放射線によって髪の毛が抜けてしまった女の子の写真などが展示されていました。その悲惨さに、私は涙が出ました。こんなにも、原爆の威力が凄いということを知らなかったからです。

実際に被爆した当時、9歳だった豊永さんという男性の方から、お話を聞くことができました。豊永さんは、原爆が投下されたとき、爆心地から10キロ離れた場所にいたそうです。そのため、爆風や熱線の被害を受けることはありませんでした。しかし、それから60年経った頃、放射線の影響が体に出始めました。数年間の間に、2個の癌が見つかったそうです。現在、治療は終了し、1か月に1回、検査を受けているとおっしゃっていました。



2日目は、本川小学校で被爆2世の岩田さんという女性の方から、お母さんが体験した話を教えていただきました。岩田さんのお母さんは、6人家族の長女で当時16歳でした。8月の初め、写真館の人に家族写真を撮ってもらい、完成を楽しみに待っていたそうです。しかし、数日後に原爆が投下されました。そして、完成した写真を見ることなく、両親と妹3人は亡くなってしまったそうです。それから岩田さんのお母さんは、一緒に写真に写った人が、いなくなってしまうのではないかと、写真撮影を拒むようになってしまったと教えていただきました。

私は、豊永さんと岩田さんの話を聞いて、原爆は多くの人々の「体」と「心」を傷つける、この世にあってはならないものだと思います。

しかし、知られているだけで、世界には1万5千4百5個もの核弾頭があります。今も多くの大切な命を奪う危機が存在していることを意味しています。そのようなことは絶対に阻止していかなければなりません。

そのために、私たちができることは、唯一の被爆国の国民として、一人ひとりが核兵器の恐ろしさをもう一度理解し、日本の非核三原則のうち「核兵器を作らない」ということがどれだけ大切なのかを核保有国の人たちに、様々な方法で伝えていくことだと思います。

私は、72年間続いてきた、平和のバトンを多くの人に繋げていきたいです。





平成29年7月25日。私は、苫小牧市中学生広島派遣団の一員として広島に降り立ちました。

1945年8月6日、原子爆弾が落とされた街「ヒロシマ」。その悲惨な現状と、ありのままの恐怖のままに残されているという原爆ドーム、平和記念資料館などを見学し、平和について考え「つなぐ」という目的のためです。

正直、原子爆弾が一瞬でヒロシマの街を焼き尽くしたという知識だけは持っていましたが、私の中では、遠い昔の自分とは全く関係のない、単なる歴史のひとつという認識でしかありませんでした。

しかし、実際ヒロシマに行き現実を目の当たりにし、語り部の豊永さんのお話を聞いたりしていくと今までそう思っていた自分を恥じると共に悔しさと悲しさがこみ上げてきました。

資料館で見た、焼けてしまっただけで原形をとどめていないガラス瓶、8時45分で止まったままの時計、目を背けたくなるような写真もたくさんありました。戦争とはこういうものなのか、戦争とはこんなにも恐ろしく悲惨すぎるものなのか、と胸が締め付けられるような思いでした。平和が当たり前で、今の自分が本当に申し訳なく思っていました。





お話をして下さった語り部の豊永さんは、原爆が落とされ、立ち上がる「きのこ雲」のような煙の中にアメリカのルーズベルト大統領、イギリスのチャーチル大統領の顔が見えたそうです。その理由は、日本は素晴らしい国で、アメリカは最低な国と教育を受けたことと、アメリカ・イギリスに対する怒りがあったからとおっしゃっていました。その後も、戦争について細かくお話をしてください、戦争というのはこんなにも近いものなのだと感じました。豊永さんのお話の中で一番印象に残ったのは「ヒロシマの心」です。

「これからの日本の未来をみんなで考え、行動してほしい。未来の平和が肩にかかっている。平和のバトンをつなげてほしい。自分なりに平和について考えてほしい。」そうおっしゃっていました。

原爆が落とされた街「ヒロシマ」。実際広島に行き、街自体はもう原爆が落とされたことなどなかったかのように平和で穏やかでした。しかし、この現実を忘れてはいけないと思いました。

現実を知り、私の考えが変わり「戦争」という言葉の深さを思い知ったような気がします。だから、尚更この現実をこれから語りついでいかなければならないと強く思いました。

これからこの先、戦争が終わり、人々が築き上げてきた平和を守り続けていくにはどうしたら良いのか、この広島の実験を伝えると共に考えていきたいと思っています。





一九四五年八月六日、午前八時十五分。 広島に一発の原子爆弾が投下されました。

街は一瞬で焼き尽くされて建物がなくなり、多くの尊い命が奪われました。私はそんな当時の様子をもっと知りたいと思い、今回の中学生広島派遣事業に参加しました。

これまでの私は広島から遠く離れた北海道の苫小牧市に住んでいるということもあり、「広島では原子爆弾が落とされて、多くの人々が亡くなった」という教科書や授業で学習した程度の知識しかありませんでした。しかし、今回の派遣事業に参加したことで当時の様子を詳しく知ることができ、平和についても真剣に考えることができました。

最初に訪れた平和記念資料館では、原爆を落とされた広島の当時の様子を目の当たりにし、愕然としました。

真っ黒になった金属製のお弁当箱やなくなった方が身につけていた洋服、原爆による熱で溶けてしまったガラスの瓶、身体にひどい火傷を負った人々の写真や当時の悲惨な様を描かれた絵など、多くの遺品や資料が展示されていました。どれを見ても、原爆の威力や原爆が落とされたときの恐ろしさが伝わり、とても胸が苦しくなりました。

特に私と同じ年齢くらいの子どもやそれより小さい子どもの遺品やボロボロになった服を見たときは、悲しくなり涙が止まりませんでした。このとき、改めて戦争がどれだけ悲惨で恐ろしいものかを知ることができました。



二日目には、本川小学校の資料館を見学しました。ここにも、溶けたガラスや瓦、焼けて黒くなった缶詰や当時の授業風景の写真などが展示されていました。その中でも私の印象に残ったのは、溶けたガラスの瓶や原爆の熱で溶けてしまった配電盤でした。ガラスや金属がそんな状態だったので、人間だったらひとたまりもないと思い、震えが止まりませんでした。

また、本川小学校では被爆二世の語り部である岩田さんのお話を聞かせてもらいました。お話の中で、グラウンドに穴を掘って、そこでなくなった方々を火葬し、いまでもグラウンドには多くの方々の骨が埋まっているということを知り、今でも家族のもとに変わることのできない方々がたくさんいることを知りました。

改めて戦争は本当に恐ろしいことであると強く実感しました。日本が戦争してから七十二年。今、私たちが暮らしている日本は平和な状態を保っています。しかし、世界には戦争をしている国々や核兵器を持っている国が多くあります。いつか日本も再び戦争に巻き込まれるかもしれません。



ヒロシマの悲劇を繰り返さないために、今私たちにできることは、戦争の悲劇から目をそらさず、世界中の人々に平和の大切さを伝え、今を生きる私たちが戦争のない世界を創っていくことだと思います。これからは、派遣事業で学んだ事を忘れず、家族や友人などの身近な人に戦争や原爆の恐ろしさを伝えていきたいです。



一九四五年八月六日午前八時十五分。

清々しく綺麗な青が澄み渡っていたヒロシマの街は一瞬にして闇に覆われました。たった一つの原子爆弾は何かもを燃やしつつし、人々を恐怖へと陥れたのです。

私は戦争の恐ろしさ・悲惨さを実際に肌で感じて平和の大切さ・命の尊さを学びたいと思い、本研修に参加しました。

研修一日目、広島は高い建物が並んでいたり賑やかで明るく、今から七十二年前に原子爆弾で被害を受けたとは思えないほど、綺麗になっていました。この時まで私は本当の戦争の恐ろしさを知らなかったのです。

最初に訪れたのは平和記念資料館。私はそこで目にしたものに衝撃を受けました。アメリカが原子爆弾に使用したリトルボーイやファットマンを再現した模型や原子爆弾により大きな火傷を負って皮膚が焼けただれた被害者の写真の数々。さらにはボロボロになった中学生の制服やワンピース…。そのあまりの悲惨さに目をふさぎたくなり、見るに耐えられませんでした。それらの物から人々の怒り、悲しみ、恐怖などの様々な感情が伝わってきて心が痛くなりました。

見学後に語り部の豊永恵三郎さんが当時の様子を詳しく話してくださいました。豊永さんはその時9歳でした。原爆投下の直後に豊永さんが列車を待っていると広島市から来た列車から皮膚が焼け落ち、真っ黒に焦げ、人間かもわからない人がゾロゾロと降りてきて、とても怖かったそうです。しかし、時間





が経つにつれ恐怖を感じなくなり、これが普通と思うようになったそうです。私はこの話を聞いて戦争は人の思考や感情までも麻痺させてしまうとても恐ろしいものだと思い知らされました。七十二年たった今でも後遺症により苦しんでいる人はたくさんいます。豊永さんもその一人です。そして、豊永さんから平和に対するメッセージをいただいたり、「ヒロシマの心」や「平和のバトン」を私たちに託されました。また、平和をつくるには自分の考えを持って行動することが大切だと教えていただきました。

二日目に訪れたのは本川小学校。そこで母親が被害にあった岩田美穂さんがお話をしてくださいました。本川小学校は爆心地から近かったのですが、幸なことに建物の一部が残り、病院として使われていました。しかし、毎日たくさんの方が亡くなってしまい、校庭で死体を焼いていたそうです。非常に残酷だと思いました。かつて病院だった校舎はたくさんの方に戦争の悲惨さを知ってもらうため、今は資料館となっています。岩田さんが詳しく話して下さったように改めて戦争の恐ろしさを実感しました。

終戦から七十二年。今まで数え切れないたくさんの方々の命が奪われ、たくさんの方々が苦しみました。今、こうして私たちが平和な毎日を送ってられるのは、戦争によって犠牲になった多くの方がいたから



です。しかし、このように平和に暮らしていける幸せを当たり前のように思っている人は、たくさんいます。私たちにとって戦争は遠いものにかんじるとは思いますが、戦争の苦しみ、悲惨さや幸せに暮らしていける感謝の心を忘れてはいけません。私は広島で受け継いだ思いをたくさんの方々に伝え、永遠平和の未来へつなげていきたいです。





私は苫小牧市中学生広島派遣団の一員として、戦争とこれからの未来について考えてきました。

そこで私たちはいろいろなことを学んできました。平和記念公園を訪ねたり、船で宮島に行き厳島神社を参拝するなど普段できないようなことも体験できました。

まず、一日目は平和記念公園内にある平和記念資料館を見学しました。私は今まであまり戦争についてよく知りませんでした。テレビや授業で見たり、学んだりしてたものとは比べ物にならないくらい恐ろしい写真や絵、言葉がたくさんありました。中にはこれを写真に収めていいものなのかと思いシャッターを切ることができずにいるものもありました。私はこのときに改めて「戦争を起こしてはいけない」と思いました。



私が資料館に展示していたもので印象深かったのはたくさんの遺品です。その中には、私たちと同じ中学生の制服や靴、大きな穴のあいて血のついてる衣服。それを見ただけでたった一発の原子爆弾がどれだけ強いものだったのか、私がその場面にいればどうなっていたのか考えるだけでも恐ろしかったです。私は、この資料館を訪れて初めて戦争の恐ろしさを学びました。

その後、私たちは実際に戦争を経験した豊永さんの講話を受けました。豊永さんは、自分がそのときどう思い、どう感じたのか。原子爆弾による被害についてすごく細かく話してくださいました。最後には「ヒロシマの心をつなぐ平和

のバトンを今、君たちに渡したから、君たちも友人などにつないで戦争の起きない未来をつかっていってほしい。」とおっしゃっていました。私はこのとき受け取った平和のバトンを一秒たりとも忘れずにこれからの日本をいきいききたいと思います。貴重なお話を聞くことができました。

次に二日目は全校生徒で平和の願いを込めた千羽鶴を奉納し、爆心地となった本川小学校で被爆二世の岩田さんのお話には、とても丈夫に作られていたため崩れなかった本川小学校が救護所になり、床一面けが人で埋め尽くされていたこと、校庭では大きな穴が掘られそこで遺体を焼いていたため掘り返せばたくさんの遺骨、遺品が出てくることを教えてくださいました。戦後、工事を繰り返し長い間使用していた校舎を一部取り壊し、残りは資料館になっています。

一日目に話してくださった豊永さんも本川小学校で話してくださった岩田さんも「道端に遺体があったり、川が遺骨で埋め尽くされていても誰一人気にしていなかった。」と言っていました。

私はそんなに恐ろしいことを普通にしてしまう戦争はもう二度と起きないようにしようと改めて思いました。

私は今回この研修に行ってこれまで気付けなかったこと、わかろうとしていなかったことをきちんと考え、これから私たちは戦争の起きない平和な世界にしていくためにどうしていけばいいのかを一人ひとりが考えていかなければいけないこと、この世界から戦争や核兵器を無くしていかなければヒロシマで起こった悲劇を繰り返してはいけないことを広めていこうと思います。



# 事業の様子

平成 29 年 7 月 11 日（火） 結団式・事前学習

広島を訪問するにあたり、団員の顔合せや事前学習として、広島に投下された原子爆弾のこと、苫小牧市で起こった戦争に関することなどを学習しました。

また、研修当日のスケジュールや注意点を確認し、研修中の役割分担などを行い、本番へ向け準備を行いました。



平成 29 年 7 月 14 日（金） 市長表敬



広島訪問前に、広島派遣団で市長表敬を行いました。

それぞれ、研修に対する意気込みや研修に参加した動機を語り、岩倉市長から激励の言葉をいただきました。

6月1日～15日まで設置していた、折り鶴コーナーにより、今年度も市民の皆さんからたくさん折り鶴をいただきました。

集まった折り鶴を苫小牧駒澤大学ボランティアサークル「ひまわりの会」のみなさんに千羽鶴にしていただきました。

御協力ありがとうございました。





平成 29 年 7 月 25 日（火）～27 日（木） 本研修

《1 日目》 7 月 25 日（火）

\* 広島平和記念資料館見学

語り部・豊永恵三郎さんによる被爆体験講話を受講

《2 日目》 7 月 26 日（水）

\* 広島平和記念公園内「原爆の子の像」へ千羽鶴を奉納

\* 本川小学校平和資料館慰霊碑へ献花

ガイドの岩田美穂さんによる解説と見学

\* 世界遺産「厳島神社」見学

《3 日目》 7 月 28 日（木）

\* 帰郷



広島平和記念資料館、豊永恵三郎さんによる被爆体験講話

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分。広島に世界で初めて原子爆弾が投下され、その年の12月末までに約14万人の人々が亡くなりました。広島平和記念資料館は被爆の実情を伝え、核兵器のない平和な世界の実現へ貢献するため設置されました。資料館では黒こげになった弁当箱、8時15分で止まった時計、被爆した動員学徒の学生服、高熱でとけたガラス瓶などの被爆資料を展示しています。

資料館見学後、語り部の豊永恵三郎さんから被爆体験についてお話をいただきました。

▲平和記念資料館を見学する団員



▲語り部の豊永さんと



### 【平和記念公園】

団員の在籍する各中学校の生徒が作成した千羽鶴と、市民の皆さんから寄せられた折り鶴で作成した千羽鶴を『原爆の子の像』へ捧げました。



### 【本川小学校】

本川小学校は爆心地から350メートル離れたところにあり、原爆によって約400人の児童と校長先生のほか10人の教師が一瞬にして命をうばわれました。

この平和資料館は、昭和3年に広島で初めて建てられた鉄筋3階建ての校舎の一部で、被害を受けた状態をそのまま残し、被爆の「証」として保存されています。展示されている写真や遺物には、多くの人々の悲しみや願いが込められています。

ガイドの岩田美穂さんから岩田さんの母親が体験したお話や当時から現在までの小学校の様子をお話いただきました。



▲ガイドの岩田さんからのお話



▲慰霊碑へ献花している様子



終戦記念日に行われた平和祈念式典では、橋場さんが派遣団員を代表して広島派遣の体験感想文を発表し、団員全員で平和の誓いを朗読しました。



▲「平和の誓い」を朗読する団員

▼体験感想を読む橋場さん



#### 「平成29年度 平和の誓い」

一九四五年八月六日、午前八時十五分、一機の戦闘機が「ヒロシマ」の青空に姿を現しました。

原子爆弾が投下され、ヒロシマに閃光が走りました。

凄まじい爆風が後を追い、辺りは火の海に包まれました。

爆心地から離れた場所でも、放射線の被害が多く、今も苦しんでいる人がいます。

私達の平和な生活はたくさんの被害者の命の上にあります。

戦争の悲惨さ、恐ろしさを忘れてはいけません。

戦争から七十二年。大きな被害をもたらす核兵器は、まだ、なくなっていない。

あの日から始まった「ヒロシマの心」をつなぐ平和のバトン。

今を生きる私達、一人ひとりが平和を考え、行動することが「つなぐ」ということです。

世界から、一日も早く戦争がなくなることを願っています。

私達がヒロシマで受け取ったバトンをたくさんの人々に、つなげていくことを誓います。

## 苫小牧市非核平和都市条例

わたしたち苫小牧市民は、安全で健やかに心ゆたかに生きられるように、平和を愛するすべての国の人々と共に、日本国憲法の基本理念である恒久平和の実現に努めるとともに、国是である非核三原則の趣旨を踏まえ核兵器のない平和の実現に努力していくことを決意し、この条例を制定する。

### (目 的)

**第1条** この条例は、本市の平和行政に関する基本的事項を定め、市民が安全で健やかに心ゆたかに生活できる環境を確保し、もって市民生活の向上に資することを目的とする。

### (恒久平和の意義等の普及)

**第2条** 市は、日本国憲法に規定する恒久平和の意義及び国是である非核三原則の趣旨について、広く市民に普及するように努めるものとする。

### (平和に関する交流の推進)

**第3条** 市は、他の都市との平和に関する交流を推進するように努めるものとする。

### (その他平和に関する事業の推進)

**第4条** 市は、前2条に定めるもののほか、平和の推進に資すると認める事業を行うように努めるものとする。

### (平和の維持に係る協議等)

**第5条** 市長は、本市において、国是である非核三原則の趣旨が損なわれるおそれがあると認める事由が生じた場合は、関係機関に対し協議を求めるとともに、必要と認めるときは、適切な措置を講じるよう要請するものとする。

### (核兵器の実験等に対する反対の表明)

**第6条** 市長は、核兵器の実験等が行われた場合は、関係機関に対し、当該実験等に対する反対の旨の意見を表明するものとする。

### (委 任)

**第7条** この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

(平成14年4月1日公布)



## 【 発 行 】

### 苫小牧市総合政策部政策推進課

所在地：〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

電 話：0144-32-6039 FAX：0144-34-7110

E-mail：seisaku@city.tomakomai.hokkaido.jp

(平成29年8月31日)